

【十月の言葉（令和五年）】

いま生かされている「そのまま」を

喜ばせていただく。

生きていれば必ず老いていきます。老いるということとは、いろいろなものを失って不自由になっていきます。体力・気力・記憶力。目がかすみ、髪が薄くなり、だんだん死が近づいてきます。老いの事実を引き受けることができなければ愚痴や腹立ちが多くなります。思い通りにいかないからです。思い通りにしたい心が苦しみを生んでいます。

「年齢を重ねると、身体は衰えるが、心の目は開かれる。人間の晩年は面白い。今まで生きてきた命の深さが見えてきた」歳を重ねることによって、今までわからなかったことがわかったりします。歳を重ねなければわからないこと、気づくことも多いものです。歳を重ねることが喜びとなる人生を歩みたいものです。

それはまた、死んでいく人生ではないのです。

浄土へ生まれて往く人生です。

浄土への道を歩む『ありがたい人生』なのです。